

〇〇御中

# GHG排出量算定結果および 削減シミュレーション結果報告書

調査対象：

調査日：年 月 日

# 目次

1 概要

2 GHG排出量算定結果

3 GHG排出量の削減シミュレーション

4 削減目標の策定

# 1

## 概要

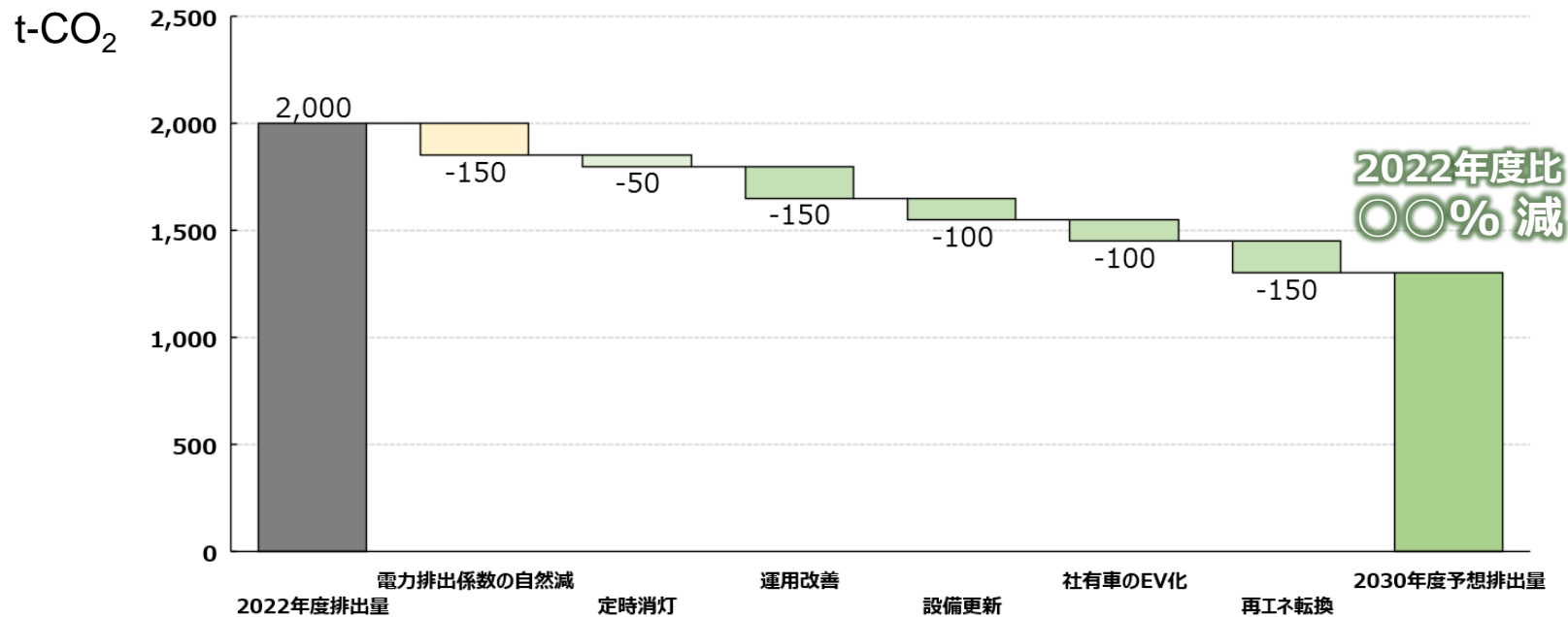
法人名	
担当者	
対象拠点	
対象期間	
担当者	MS&ADインターリスク総研株式会社 リスクマネジメント第 部

# 1 概要

Sample

## GHG排出量算定、削減シミュレーション結果に基づく削減目標

貴社の【年 月～年 月】におけるGHG排出量	● ● t-CO <sub>2</sub>
(参考)【業種】のエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量【年度】平均	● ● t-CO <sub>2</sub>



2022年度における排出量○○t-CO<sub>2</sub>に対し、各削減行動等に基づく削減効果をシミュレーションしました。その結果○○t-CO<sub>2</sub>と算出され、2022年度比で約○○%減少したCO<sub>2</sub>排出量となります。  
貴社削減目標は他社状況をふまえ2022年度比○○%の削減目標をお勧めします。

# 2

## GHG 排出量算定結果

## 2

## GHG 排出量算定結果

Sample

## 1. 全拠点集計

年合計	エネルギー使用量			GHG 排出量	
	GJ	原油換算 (kL)	割合 (%)	t-CO <sub>2</sub>	割合 (%)
全社			100		100
【拠点1】					
【拠点2】					
【拠点3】					

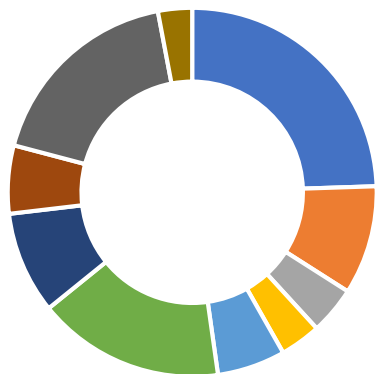
## 2

## GHG 排出量算定結果

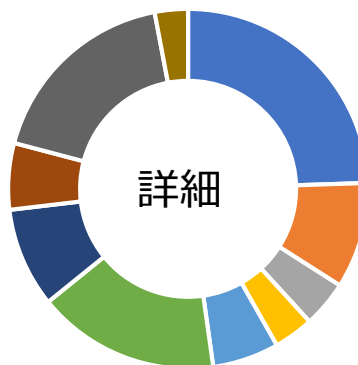
Sample

## 2. 全社 年合計

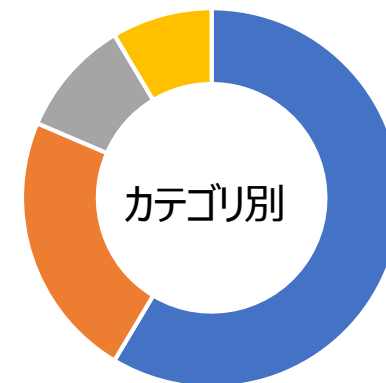
	エネルギー使用量		GHG 排出量
	GJ	原油換算 (kL)	t-CO <sub>2</sub>
全社 年合計			



エネルギー使用量構成比 (%)



GHG排出量構成比 (%)





# 2 GHG 排出量算定結果

Sample

## 2. 全社 年合計

項目			使用量		エネルギー使用量		
					熱量 (GJ)	割合 (%)	原油換算 (kL)
電力	自家発電	再エネ		kWh			
	外部電源	再エネ以外		kWh			
		再エネ		kWh			
間接エネルギー利用 (電力除く)	熱	産業用蒸気		GJ			
		蒸気 (産業用以外)、 温水、冷水		GJ			
直接エネルギー利用 (電力、輸送除く)	ガソリン			kL			
	軽油			kL			
	A重油			kL			
	灯油			kL			
	液化石油ガス (LPG)			t			
	液化天然ガス (LNG)			t			
	都市ガス			千m <sup>3</sup>			
	石炭			t			
輸送	ガソリン			kL			
	軽油			kL			
	液化天然ガス (LNG)			t			
	電力			kWh			
合計							

# 2 GHG 排出量算定結果

Sample

## 2. 全社 年合計

項目			GHG 排出量			
			t-CO <sub>2</sub>	割合 (%)	t-CO <sub>2</sub>	割合 (%)
電力	自家発電	再エネ				
		再エネ以外				
	外部電源	再エネ				
間接エネルギー利用 (電力除く)	熱	産業用蒸気				
		蒸気 (産業用以外)、 温水、冷水				
直接エネルギー利用 (電力、輸送除く)	ガソリン					
	軽油					
	A重油					
	灯油					
	液化石油ガス (LPG)					
	液化天然ガス (LNG)					
	都市ガス					
	石炭					
輸送	ガソリン					
	軽油					
	液化天然ガス (LNG)					
	電力					
合計						

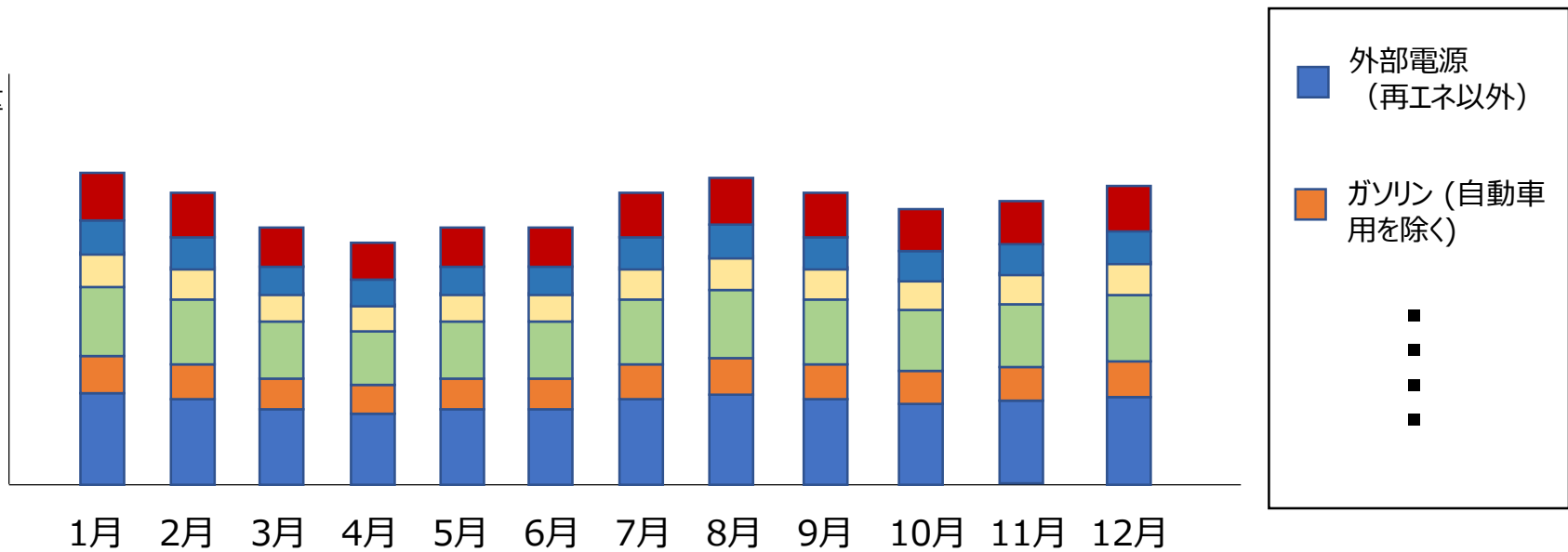
# 2

## GHG 排出量算定結果

Sample

### 3. 全社 月ごとの推移

GHG排出量  
(t-CO2)



# 3

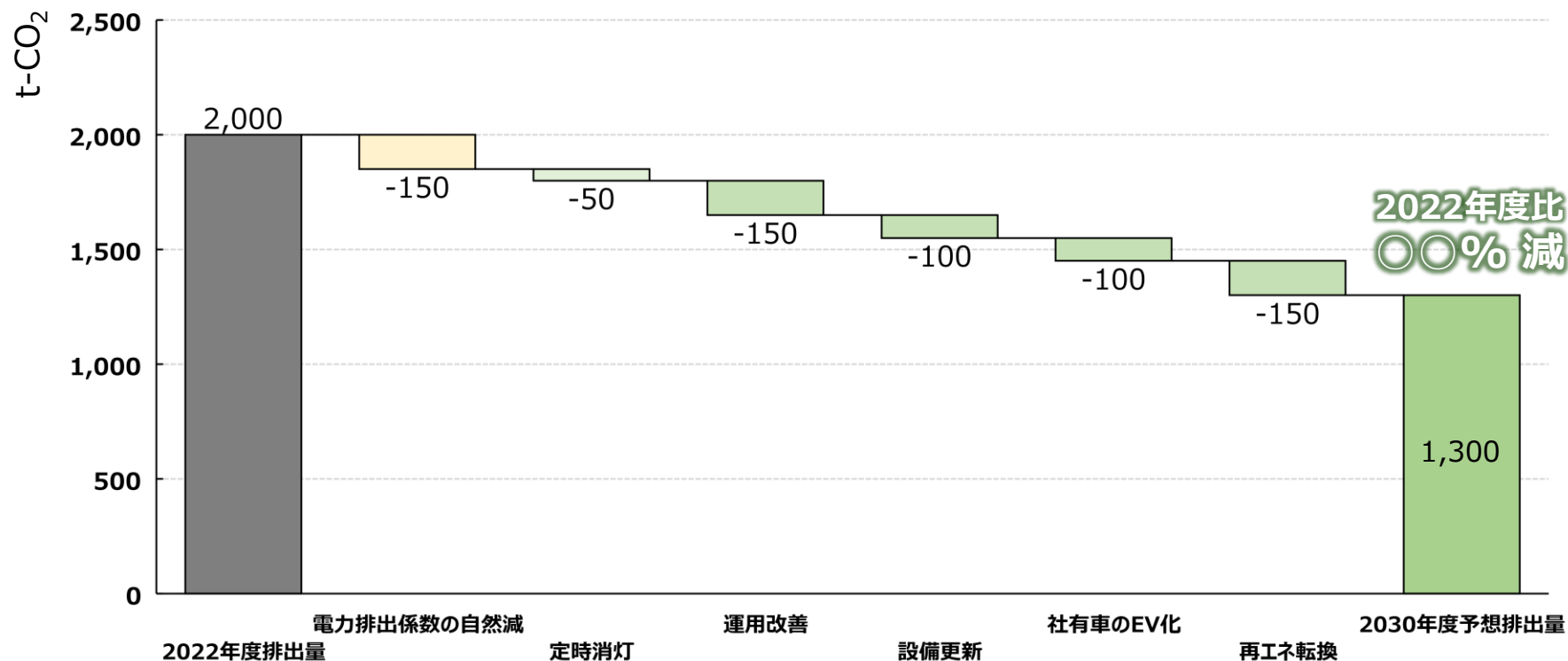
## GHG排出量の削減シミュレーション

## 3

## GHG排出量の削減シミュレーション

Sample

ご提出いただいたデータおよび資料等に基づくGHG排出量の削減シミュレーション結果を以下にお示します。



2030年度における各削減行動等に基づくGHG排出量の削減効果をシミュレーションし、2030年度予想排出量を算出しました。その結果XXXt-CO<sub>2</sub>と算出され、これは2022年度比で約35%減少したGHG排出量となります。

## 3

## GHG排出量の削減シミュレーション

Sample

各削減行動における削減量を以下にお示します。

項目	削減量[t-CO <sub>2</sub> ]	削減割合
電力排出係数の自然減	〇〇	〇〇%
定時消灯	〇〇	〇〇%
運用改善	〇〇	〇〇%
設備更新	〇〇	〇〇%
社有車のEV化	〇〇	〇〇%
再エネ転換	〇〇	〇〇%
合計	〇〇	〇〇%

## 3

## GHG排出量の削減シミュレーション

Sample

削減シミュレーションにおける各削減量の条件設定を以下にお示します。

項目	設定
電力排出係数の自然減	現行のエネルギー基本計画における2030年電源構成が一般電力で達成され、排出係数が以下の通り低下すると仮定しました。 2022年 ○○kg-CO <sub>2</sub> /kWh 2030年 ○○kg-CO <sub>2</sub> /kWh (2022年比○○%減)
定時消灯	○○○○
運用改善	○○○○
設備更新	○○○○
社有車のEV化	○○○○
再エネ転換	○○○○

# 4

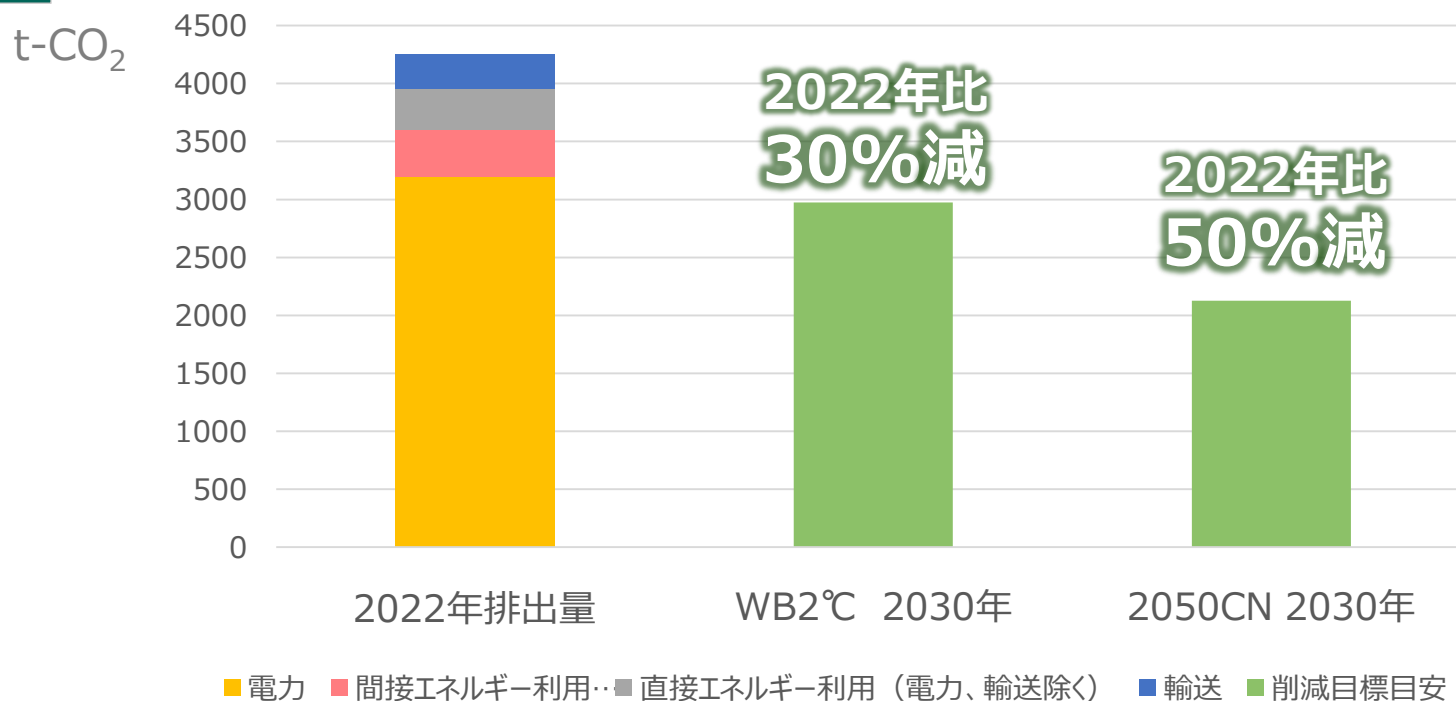
## 削減目標の策定



## 4

## 削減目標の策定

Sample



パリ協定に整合した企業の排出削減目標の方法を定めた“Science-Based Targets” (SBT) の中小企業向け目標設定手法を参考\*に以下の2つのパターンを示しています。

2°C未満(WB2°C)

21世紀末の平均気温上昇を2°Cを十分下回る水準に抑えるための目標

2050年カーボンニュートラル  
(2050CN)

2050年までにカーボンニュートラルを達成し、21世紀末の平均気温上昇を1.5°Cに抑えるための目標

\*SBTに準拠するためには、非エネルギー起因の温室効果ガス排出量まで算定する必要があるため、本結果はあくまで目安です。

## ①同業他社の目標及び取組状況の調査

会社名	認証取得	目標設定	具体的取組
A株式会社	TCFD賛同	2030年：46%削減(2019年比) 2050年：カーボンニュートラル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エネルギー転換の実施</li> <li>✓ 2030年度までに再生可能エネルギー・LNG等の発電の導入を推進。</li> <li>■ 技術革新</li> <li>✓ グリーン水素を調達したCO<sub>2</sub>を排出しない輸送手段の確立。</li> <li>■ 投資規模</li> <li>✓ カーボンニュートラルに設備投資(2030年までにおよそXX億円の設備投資)</li> </ul>
株式会社B	SBTi認定取得	2030年：50%削減(2013年比) 2050年：カーボンニュートラル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エネルギー転換の実施</li> <li>✓ ○○</li> <li>■ 技術革新</li> <li>✓ ○○</li> <li>■ 投資規模</li> <li>✓ ○○</li> </ul>

Sample

MS&ADインターリスク総研株式会社

101-0063

東京都千代田区神田淡路町2-105

ワテラスアネックス